

# スペシャルすまいる

No. **57**  
October  
NIKKO City Council of  
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



始まります！。

赤い羽根共同募金



日光市社会福祉協議会  
イメージキャラクター「ニッキー」

今年も小学生ふくし体験教室が開催され、障がい者との交流や赤い羽根共同募金の講話、募金箱づくりを通して“ふくし”の体験をしました！

## CONTENTS

- 中・高校生ボランティアの今 ..... 2～3ページ
- 私の地域の福祉活動 ..... 4～5ページ
- 共同募金のお願い ..... 6ページ
- 平成29年度事業報告・決算 ..... 6ページ
- ふくしのまちづくり委員会全体会 ..... 7ページ
- 豪雨災害義援金・寄附報告 ..... 7ページ
- 4市社協活動報告 ..... 8ページ



この広報誌の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

# 中・高校生ボランティア活動の今一。

## ボランティア・サマースクール

### ワークキャンプ2018

今回で29回目を迎えるワークキャンプ。平成30年7月23日(月)～8月2日(木)に、市内中学生14名が参加し、市内福祉施設などで、ボランティア活動を体験しました。

参加者は、自分たちが住んでいる地域で、たくさんの人たちとの出会い、支えあいの大切さなど、ボランティアについて理解と関心を深めることができました。参加者の皆さんには、この暑かった夏での貴重な体験を自分自身の今後へ活かしていただくことを期待します。

#### ■ボランティア体験

参加者は、市内4つの施設から体験先を1つ選び、小学生と一緒に遊んだり、高齢者の方とお話したり、障がいのある方と一緒に作業したり、いろいろなボランティア体験を楽しく、そして真剣に取り組みました。

#### ■地域の人との出会い一。

それぞれの活動先では、小さい子どもから高齢者まで、たくさんの人と出会うことができました。初めは緊張していましたが、終わりの頃には、みんなで笑顔になりました。

#### ■同年代との出会い一。

参加者同士の出会いがありました。住んでいる地区や学年が違う人と、新たなつながりができました。

#### ■参加者の声(抜粋)

- 福祉の最前線を見られてよかった。
- 大変なこともあったけど、楽しかった。
- 子どもから大人までのみんなの笑顔が見られてよかった。ボランティアは楽しかった。
- ボランティア活動をもっとしたい。



キリフリ自然学校



はばたき

活

新たな出会い。



いのくら児童クラブ



毎日クリスマス

学

# 森

## バンドリの森 遊歩道整備



## 新たな チャレンジ

# 畑

## 川俣菜 栽培



### ■高校生によるボランティアの輪

「NIKKO高校生ボランティアネットワーク」は、市内高校のボランティア部、福祉部による連合団体として、平成25年の結成以来、宮城県東松島市における震災復興支援活動や高齢化地域の川俣地区活性化のための支援活動に取り組んでいます。(現在、18名が活動中。)

### ■川俣地区の方々との新たな取り組み

栗山地域川俣地区での活動は、平成26年から本格的にスタートし、月に1~2回程度、地域行事(クリーン作戦、夏祭りなど)の手伝い、グラウンドゴルフやそばづくりなどを通して交流を深めてきました。

今年度も5月から活動が始まりましたが、地域の要望に応えるため、新たな活動にも挑戦しています。

### ■チャレンジ①「バンドリの森の遊歩道整備」

ひとつ目の取組は、自治会で進めている旧川俣小・中学校跡地の裏手にあるトレッキングスポット「バンドリの森」整備の一環として、「樹名板づくり」「巣箱づ

くり」を行っています。この森は、あまり近くでは見かけない珍しい樹木や数多くの種類の樹木があります。「遊歩道を訪れた方々に、樹木にも関心をもらいたい」と思っています。また、小鳥やバンドリ(ムササビの地域名)などの生息地としての再生も期待しています。

### ■チャレンジ②「川俣菜の栽培とブランド化」

ふたつ目の取組は、「川俣菜の栽培」です。この川俣菜(カブ菜)は、地域特有の野菜として古くから栽培され、保存食やジビエ料理には欠かせない食材として、今でも食卓に並んでいます。そんな地名「川俣」が入った野菜ですが、最近では栽培する人も減っているようです。「この川俣菜を多くの方々に知ってもらいたい。」…そんな思いから、地域の方と一緒に川俣菜の栽培を行い、普及活動にも取り組んでいく予定です。

新たな挑戦は始まったばかりですが、地域の魅力を活かした活動で、みんなが元気な地域づくりのお手伝いできればと思っています。

# 今市地域の取り組み

## 今市地区

### 「ひきこもり」についてのセミナー開催 今市地区社会福祉協議会

今市地区では、「みんなにやさしいまち“今市”」の実現を目指して、ひきこもりの現状と支援について一般社団法人栃木県若年性支援機構



理事長 中野 謙作 氏を講師に招きセミナーを開催しました。現在では8050問題と言われるような一つの世帯に複数の課題が重なり複雑化してしまうことが多くなっています。課題が重複・複雑化する前に発見し解決していける地域を目指します。

平成30年度は、「社会的孤立の解消に向けた事業推進」を重点目標として掲げ、様々な事業を行います。



## 落合地区

### 地域の居場所づくり 落合地区社会福祉協議会

現在、落合地域では、様々な地域で集える場所ができ始めています。地域住民の方から「みんなで健康を維持できる場所を作りたい」「おしゃべりする場所がほしい」といった相談が年々増えてきたことで、一緒にそういった「居場所」をつくることに力を入れ始めました。居場所づくりを行ううえでは、相談をしてくれた地域



住民の方の想いに寄り添って、一緒に居場所をつくっていくことを大切にしています。やってみたいという想いを大切にし、「自分がやってみたいこと」「楽しいと感じること」を聞き取りながら、形にするために様々な支援を行っています。もちろん何かを始めるには大きな不安があるかと思えます。その不安を解消するためにも、相談者の声を聞くことを丁寧にすることが大事だと感じています。いずれは落合地域の多くの場所に、歩いていける居場所が増え、安心して楽しく過ごすことのできる地域を目指していきたいと考えています。



## 豊岡地区

### 役員研修 豊岡地区社会福祉協議会

豊岡地区では、7月20日(金)に役員研修を実施し、那須烏山市の向田ふれあいの里へ視察に行ってきました。

ここは、廃校になった小学校を会場に、①ふれあい塾(健康体操):週1回②ふれあいレストラン:週2回③地域の茶の間:週1回を住民が主体となって運営しています。研修当日はふれあい塾にて健康体操を一緒に体験させていただきました。



当協議会でも、年に1度、自治会毎にいき

いきサロンを実施しています。参加された役員からは「体験したレクリエーションや体操を今年のいきいきサロンに取り入れたい」との意見がありました。今後は、今回研修した内容を参考にしながら、豊岡地区での活動内容が充実するよう、取り組んでいきたいと思えます。



# 目を紹介します！

## 大沢地区

### ふれあい交流会 大沢地区社会福祉協議会

大沢地区では、高齢者の健康増進や生きがいづくりを目的として、大沢地区の北部・中部・南部の各地域で『ふれあい交流会』を実施しています。今年度は、6月～7月にかけて前期の交流会を開催。地域包括支援



センター職員を講師にお招きして『貯筋アップ体操』を体験した後、みんなで昼食会を行い、にぎやかな時間を過ごしました。この交流会の実施にあたっては、特に当日の運営や昼食作りにおいて、地区社協登録ボランティアの方々にご協力を得て実施しています。後期の交流会は、9月～10月にかけて開催する予定です。



## 塩野室地区

### 花いっぱい事業 塩野室地区社会福祉協議会

塩野室地区にあるなかよし花壇にて、5月26日(土)に土づくりを行い、6月5日(火)に小林小学校・小林中学生、塩野室地区民生委員児童委員協議会が協力し、すかい荘で育てられたマリーゴールドやサルビアを植えました。花植え後は地域ボランティアによる花壇整備のお陰でいつもきれいな



花壇が地域を彩っています。秋の自治会長会による花植えまで、今回植えた花たちを楽しむことができます。

土づくりから始まり秋の花植えが終わるまで、なかよし花壇はたくさんの地域の方が支えています。

花いっぱい事業を通して愛着を持つことができる地域づくりを目指しています。



## つながる福祉ラウンドテーブル@いまいち

### (日光市社会福祉協議会・今市支所)

日光市社会福祉協議会・今市支所では、今市地域における高齢者・児童・障がい者などの様々な分野の相談機関同士が連携して、今日の多様化・複雑化する福祉課題を解決するための話し合いの場として、『つながる福祉ラウンドテーブル@いまいち』をスタートしました。



初回の7月20日(金)は、勉強会と意見交換会を実施。『見えない孤立』をテーマに、特定非営利活動法人はばたき 理事長 広瀬 浩 氏から講話をいただいた後、各現場における相談体制や課題について話し合いました。今後も定期的に勉強会などを開催し、各機関同士の密な“ヨコ”のつながり作りを目指します。



# 共同募金運動

## 赤い羽根募金

10月1日から全国一斉に共同募金運動が始まります!!

戦後間もない1947(昭和22)年、戦後復興の一助として市民が主体となり共同募金が始まりました。その後、時代の要請にあわせて、子供の遊び場や障がい者の小規模作業所、高齢者への在宅福祉活動などさまざまな福祉に役立てられてきました。

日光市では、戸別募金、法人募金、学校募金、イベント募金など多くの募金活動を実施します。集められた募金の約70%は、日光市内の福祉育成に役立てられます。

「じぶんのまちをよくするしくみ。」の共同募金にご協力をお願いします。



### 目標額 ¥16,851,000

ご協力をお願いします。

## 平成29年度事業報告・決算

【新規事業】 ・集いの場づくり事業 ・ちょっとお手伝い(生活支援サービス)推進事業  
・社会福祉法人の「地域における公益的な活動」推進事業

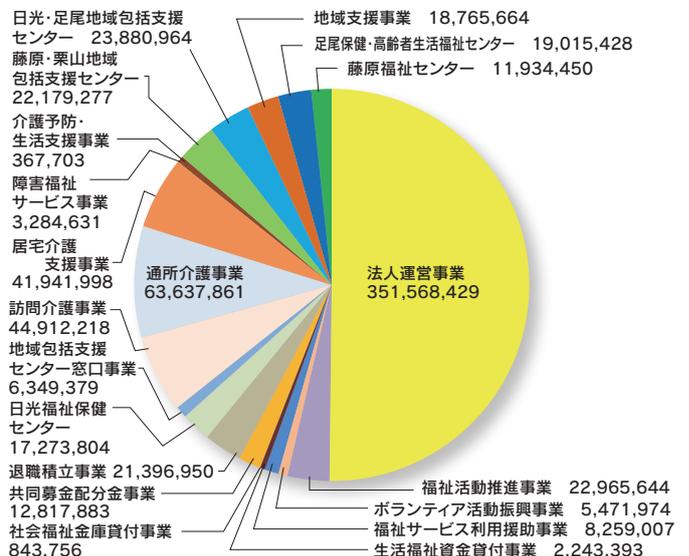
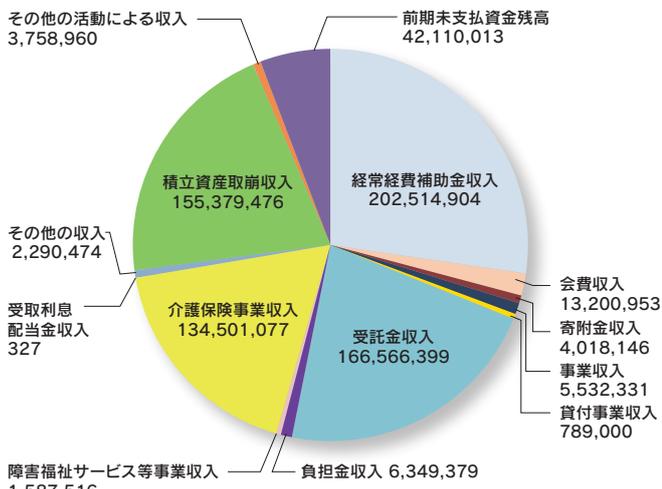
- 活動を支える** (住民主体の理念に基づく新たな地域コミュニティづくりを進めます。)
  - ①第11回全国校区・小地域福祉活動サミット開催事業
  - ②第2期日光市地域福祉活動計画(13地区)の推進
  - ③にっこ福祉のまちづくり推進委員会の運営支援 他14事業
- 担い手を育てる** (多様な人や機関等が地域活動に参加しやすい環境づくりを進めます。)
  - ①介護支援ボランティア事業
  - ②青少年ボランティアリーダー養成事業
  - ③災害ボランティアスキルアップ事業 他14事業
- 生活を支える** (身近な小地域での総合相談・生活支援体制づくりを進めます。)
  - ①訪問介護事業(3事業所)
  - ②通所介護事業(4事業所)
  - ③居宅介護支援事業(2事業所) 他21事業
- 仕組みを創る** (多様な人や機関等が地域活動に参加しやすい環境づくりを進めます。)
  - ①もうひとつのふるさと応援プロジェクト事業
  - ②CSR推進事業
  - ③縁人プロジェクト事業(地域社会における高校生の役割創出に関する研究) 他3事業
- 組織を支える** (地域社会から信頼される組織を目指して経営管理体制の強化に努めます。)
  - ①福祉のまちづくり基金の適正な運用
  - ②災害ボランティア活動支援基金の適正な運用
  - ③テーマ別研修の推進 他6事業

### 決算の概要

### 平成29年度決算

収入 738,598,955円

支出 699,110,413円



## 地域で安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり実現のために

### 『にっこう福祉のまちづくり推進委員会』（通称：ふくまち委員会）についてご紹介します。

#### 「ふくまち委員会」とは・・・

日光市社会福祉協議会では、日光市地域福祉活動計画（※1）を推進していくために、また、福祉活動の課題解決に向け協議・検討を行うために、「**にっこう福祉のまちづくり推進委員会**」（通称：**ふくまち委員会**）を市内13地区に分けて設置しています。

13地区で147名の方が、ふくまち委員として、私たちの身の回りに起こっている生活上の問題を明確にし、自分たちのできる解決方法を考えながら、「**自分の地域で安心して幸せに、そして豊かに暮らすことができる『福祉のまちづくり』**」実現のための話し合いを行っています。

※1『地域福祉活動計画』とは、住んでいる方が中心となって、地域を良くするために、自分たちで出来ること（まちづくりの目標と取組の方向性）をまとめた計画です。

※2『地域共生社会』とは、国が新しい社会福祉の方向性として打ち出したビジョンです。

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会が地域共生社会です。

#### 平成30年度ふくまち委員会第1回全体会議を開催しました

去る7月31日（火曜日）に、ふくまち委員会の活動が充実するよう、また各地区で抱える課題等について情報を共有し意見交換を行うため、13地区全ての委員が一堂に会する「全体会議」を開催しました。



全体会議では、研修会として、シンポジウム「みんなが安心して幸せに、そして豊かに暮らすために～地域で求められる取組～」が行われました。



コーディネーターの同志社大学社会学部永田教授より「地域共生社会（※2）の実現に向けて」と題してご講話をいただき、その後、今市地区社会福祉協議会が実施する「認知症サポートネットワーク事業」と、足尾地区で活動されている足尾郷ボランティアの会の「かんも茶論（サロン）」の事例報告がありました。

実際に市内で行われている事例に基づきながら、「地域共生社会」をつくる「我が事」の取り組みについて認識を深めるとともに、これから地域で安心して幸せに暮らすために必要なポイントを学びました。

### 「平成30年7月豪雨災害義援金」のお礼と中間報告

8月31日現在 累計額 **790,996円**

お預かりした義援金は全額、日本赤十字社栃木県支部に送金をさせていただきます。（日本赤十字社を通じ被災地に配分されます。）

★義援金募集期間：平成30年7月11日～平成30年12月28日

★募金箱設置・受付窓口：

日光市役所市民課、各行政センター市民サービス係  
社会福祉協議会本所、各支所（栗山支所を除く）

平成30年7月豪雨災害義援金 協力者名簿（敬称略、順不同）※掲載承諾者のみ

地域	名 称	金額(円)
今 市	高橋 隼	50,000
今 市	手代木会	11,000
今 市	栃木県立今市高等学校	27,305
今 市	日光市地域婦人連絡協議会	30,000
今 市	小倉公民館 館長 伊藤 一哲	14,171
今 市	朝日町自治会	21,900
今 市	日光山遊会（代表 高野 陽）	10,000
日 光	社会福祉法人 晁友会 きびたぎ荘職員及び利用者家族一同	21,267
藤 原	日光明るい社会づくり運動協議会	50,545
藤 原	中三依自治会盆踊り大会	2,861
栗 山	上栗山自治会	7,000

### 寄 附 報 告

平成30年6月1日～  
平成30年8月31日

#### （一般寄附）

取扱	寄 附 者 名	金額(円)
本所	杉並木カラオケ大会実行委員会	20,783
本所	連合栃木なんたい地域協議会	20,000
今市	日光市グラウンドゴルフ協会	10,200
今市	栃木県歌謡協会日光支部	10,000
今市	今市公民館ふれあい教室	2,830
今市	日光市グラウンドゴルフ協会	11,000
今市	齋藤 シン	10,000
今市	ヘアーデザインVIVID	8,692

#### （物品寄附）

取扱	寄 附 者 名	品 名
藤原	速水 茂希	車いす（1台）



ありがとう  
ございます！

# 災害時における更なる「連携・強化」をめざして ～県外の災害時相互支援協定社協との平常時の関係づくり～

Series  
1

## ■ 災害時の支援活動に不可欠な「災害ボランティア活動」

災害発生後、災害復旧・復興には多くの力が必要になります。そのひとつに、災害復旧や生活支援に携わる「災害ボランティア」があります。災害対策基本法上でも位置づけられたように、被災地・被災者を支援するボランティア活動は不可欠なものとなっています。

日光市社協では、災害時に全国から駆けつけるボランティアを受け入れ、支援へとつなぐ「災害ボランティアセンター」を開設しますが、その災害時に備え、日ごろから災害ボランティアセンター設置・運営に向けた準備などを行っています。

## ■ 「災害ボランティアセンター」を支えるつながり

災害ボランティアセンターの設置等に関しては、日光市、日光市青年会議所との日光市災害ボランティアセンター運営連絡会や、栃木県社協や県内の市町社協との災害支援担当者連絡会等により災害支援のあり方などについての勉強会や話し合いが行われています。

また、本会独自の特徴としては、県外の3社協（福島県相馬市社協、新潟県妙高市社協、宮城県東松島市社協）と「災害時等における相互支援活動に関する協定」を締結しています。この協定により、平成27年9月関東・東北豪雨では、災害ボランティアセンターの開設準備から運営支援まで、継続的な支援を受けることができました。

## ■ 中間支援の立場としての取組～「4社協地域福祉連絡会」を通じた“日常的”な関係づくり～

「日常的な災害時への備え」はとても大切です。これは、災害ボランティアセンターを設置・運営する本会にとっても同じことです。

この県外3社協とは、平成28年度から年1回、開催地持ち回りで「4社協地域福祉連絡会」を開催し、各社協の職員との情報共有や意見交換などを行っています。今年度は、去る7月27日（金）、福島県相馬市を会場に行われま



した。「災害時にはどう連携するか？」

…協定を締結しただけではなく、日ごろからの「顔の見える関係づくり」が災害時には“強み”となります。今後も災害にも強いまちづくりをめざして取り組んでいきます。



### 【県外の協定締結社協】

締結先	締結日	締結経緯
相馬市社協（福島県）	2013年11月7日	東日本大震災における独自の支援活動をしたことが契機。その後、市民や本会社協職員研修などで交流活動を行っている。
妙高市社協（新潟県）	2014年3月8日	両市の中学・高校生によるボランティア交流活動が契機。現在も両市を行き来した交流活動を行っている。
東松島市社協（宮城県）	2015年8月11日	日光市の高校生による東日本大震災の復興支援活動が契機。両市の高校生たちが地域住民との交流活動などを行っている。

スペシャルすまいる

No.57 2018.9.25

■編集・発行／社会福祉法人 日光市社会福祉協議会  
〒321-1261 栃木県日光市今市511-1（日光市役所春日町庁舎内）  
TEL 0288-21-2759 / FAX 0288-21-3110  
ホームページアドレス <http://www.shakyo-nikko.or.jp>  
印刷：沖印刷